
ネットワーク化による 情報非対称構造の変化とその影響

慶應義塾大学環境情報学部

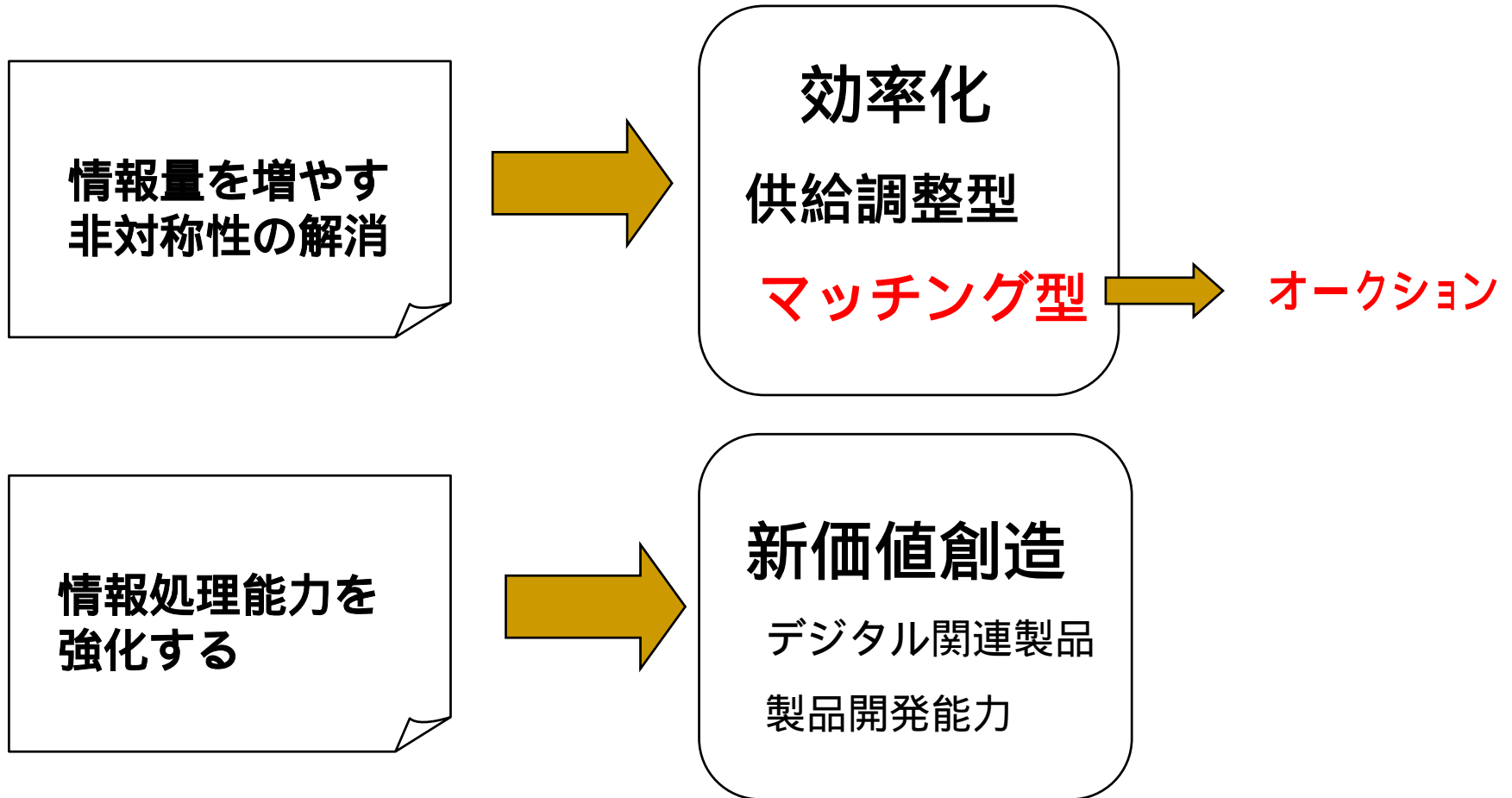
國領 二郎

(<http://www.jkokuryo.com/>)

何が起こったのか？

- **インターネット：情報を発信するコストの劇的な低下。
「末端」から世界中に低コストで情報発信**
 - ブロードバンド常時接続
 - 無線LANの普及
- **オープンアーキテクチャの採用で、断片化され、散在していた情報が結合する** **仮想的な統合**

価値の源泉：効率性と創造性



但し、単なる効率化が帰結ではない



情報量が人間の情報処理能力を上回る場合
階層構造化 処理の外部依存(ブランドなど)
単なる非合理的な行動も

認知限界がシステム設計のボトルネック = 決定要因になる

プライバシーもこの延長で考えられる

- プライバシーをめぐる二面性
住基ネットに象徴される「集中管理(情報非対称性)」へのアレルギー
VS
携帯電話に見られる信頼できる相手には開放的態度
- より本質に近いところで考える
知らない間に、知らない人に監視され、利用されていることへの不安。
- 監視していることを監視される構造と、監視していることを監視されない構造

いま新たな可能性

リアルとバーチャルが結合する

- かつて、リアルの世界との結合が難しかった
技術的:モノは運べない。どこにあるか分からない
ビジネスモデル:希少性がなくなるので儲からな
ネットワークはいつもつながっているわけではない
- 個体識別技術 + いつでもどこでもネットワークでモノを
ネットワークの上にマッピングできる
- 情報発信コストのさらなる劇的低下
中古部品が自分の存在をネットワークに発信する...
リサイクルセンターに商品を持ち込むとお金がもらえるシステムへ

個体識別技術は「つながり」を回復させる技術

■ 生産者と消費者をつなぐ

- 近代社会で失われた大量生産、大量販売のシステムの中で、作る人は誰が生産物を使うのか知らず、使う人もだれが作ったか知らない関係ができてきた
- 供給者にとって、作ったものがどこに行ってしまったのか分からない、責任の取りようのない状態
- 使用者にとって、使っているものが、どこから、誰から来たのかわからない不安な状態

■ ネット(情報)の世界とリアル(モノ)の世界をつなぐ

- ネットワーク上にリアル世界をマッピングし、ネットの力をリアルの世界に還元する

無線電子タグ: バーコード以来の大物？

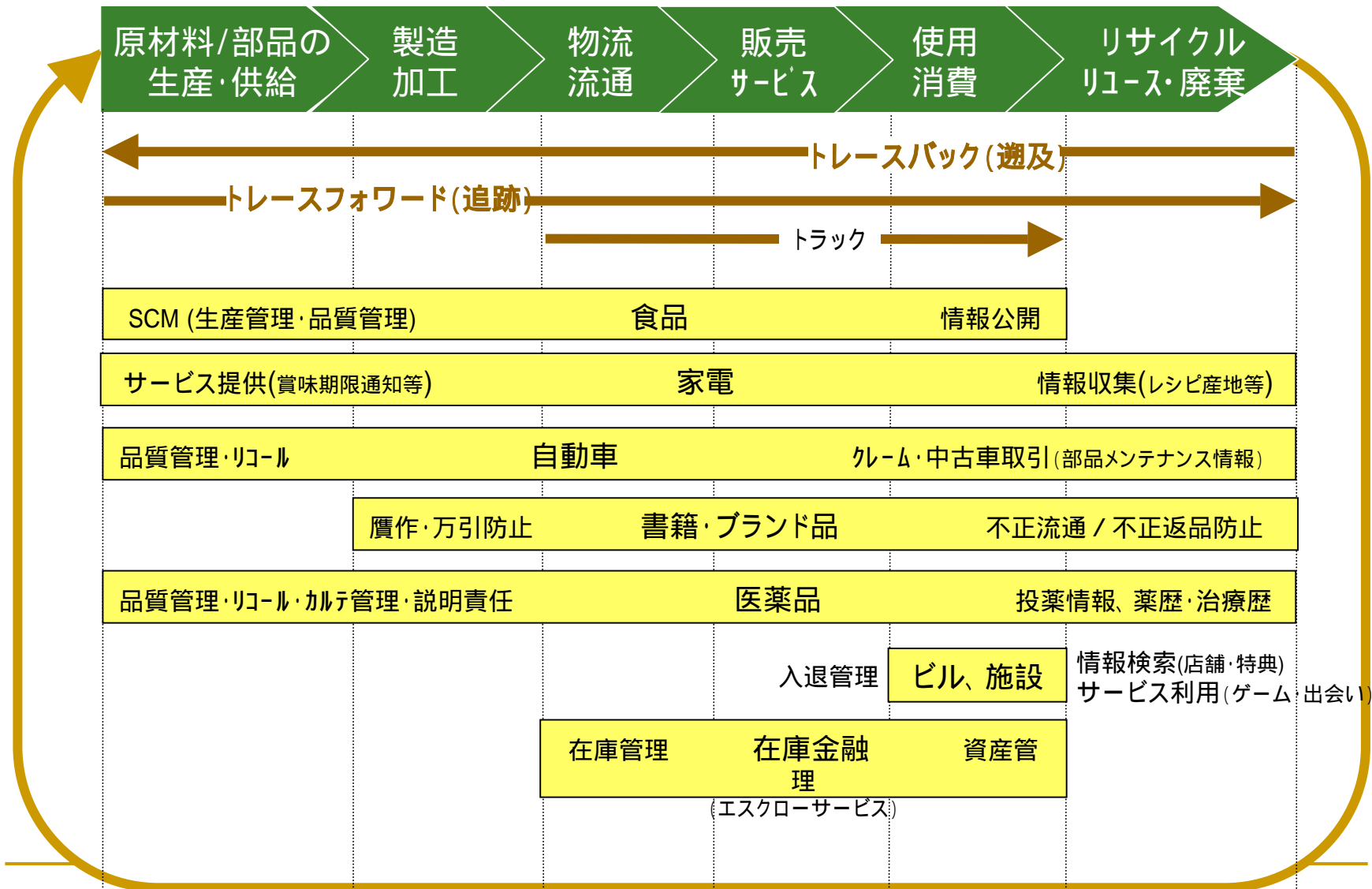
ロジスティクス

可視化: インターネットと組み合わせれば全ての商品の位置情報が分かる。資産管理、食品・医薬品安全管理、リサイクルなど応用は無限

マーケティング

究極の差異化: 個々の商品だけでなく、場所、時間など全て個別化

「トレーサビリティ」 trace + ability = traceability.



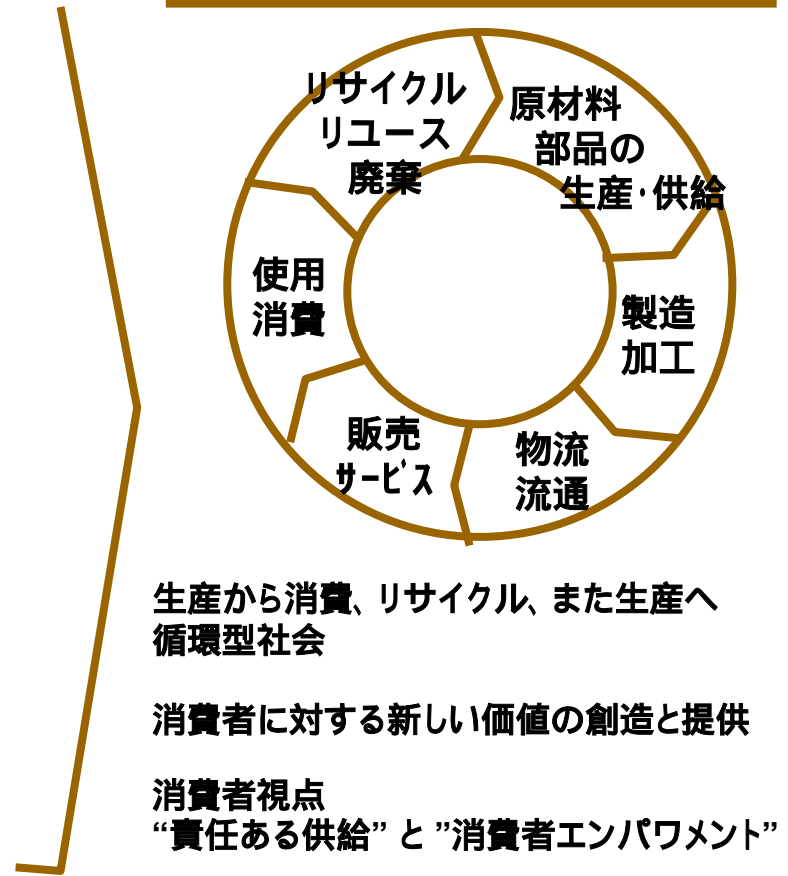
トレーサビリティは本来循環形で描きたいところだが、ここでは便宜上線形としてある

変化するサプライチェーンの姿

活用前



活用後



なぜ社会的に大きなインパクトがあるのか？

可視化

モノ世界をネットワーク上に正確にマッピング
識別の細分化

情報の非対称構造変化

- ・ 流通構造変化
希少性の対象が変化
- ・ パワーバランスの変化
プライバシーも消費者と事業者のパ
ワーバランス問題と考えられる
もちろんチャンネル内パワーバランスも

物理的所在と所有の分離

- ・ 究極の商物分離
- ・ 商流、物流完全分離 いずれ決済

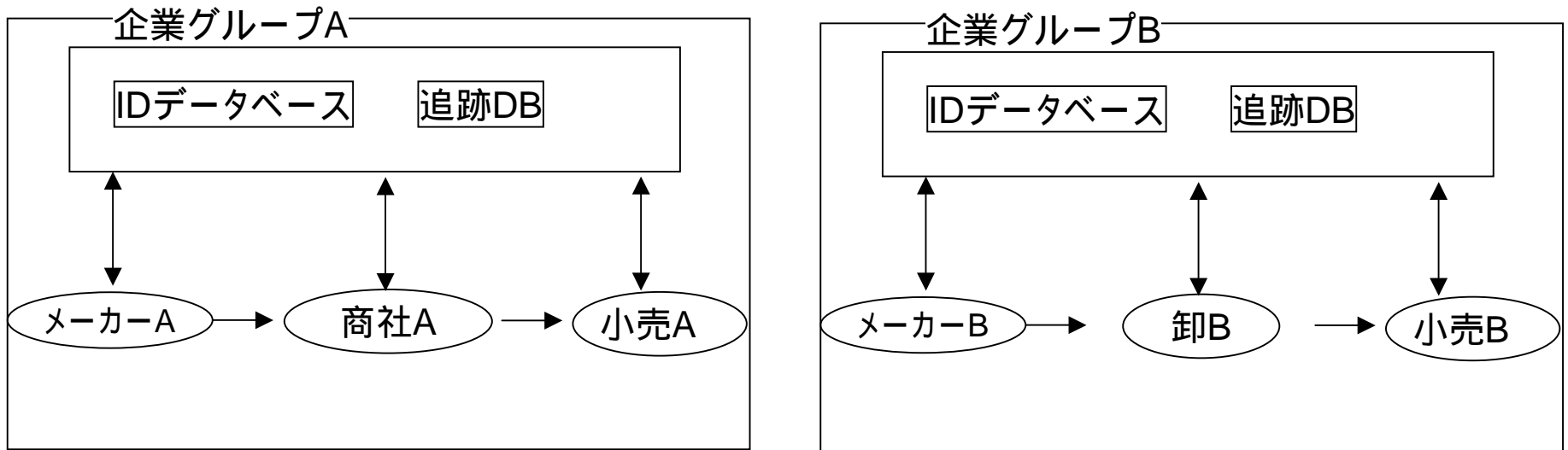
参考: チャンネルは商流(所有権移転)、物流(物理的
所在の移転)、決済(キャッシュフロー)の三つの流
れで分析できる

オープン・アーキテクチャの提案

ネットワークの力を活かす社会とビジネスの構造

無線電子タグのネットワークにおいても

避けたい困り込み化・分断化



これでは、できるサービスの幅が大幅に狭くなってしまう！！

オープンなプラットフォームを

